

阿東篠生地区において、人・農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和2年3月16日

山口市長 渡辺 純忠

※下記3のみ変更

記

1. 会合の対象とした地域

阿東篠生地区

(細野、田代、上中郷、文珠、見附、中郷、橋本、親睦、大野、渡川、持坂西、持坂東、持坂開敷、牛人屋、上三谷、下三谷、榎谷、築地、千頭、御堂原)

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年12月10日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

16 経営体数

法人	7 経営体
個人	9 経営体

農地の集積面積

109.12ha (区域内の農地面積 165.50ha、集積率 65.93%)

4. 今後の地域農業の在り方

中心経営体は、優良農地の作業受託や農地集積、飼料米等の作付けによる生産コスト削減による経営安定を図る。また、山口市街地と接する利点を生かし、他地域からの就農受入について推進する。

地域にある「道の駅長門峡」の販売力を活用し、果樹や多種多様な野菜の生産を拡大し、増収増益を目指す。

新規就農者に対しては、生産技術や営農支援において、集落ぐるみでのフォローアップを行い、将来的には地域の後継者として育成する。

阿東生雲地区において、人・農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年1月29日

山口市長 渡辺 純 忠

記

1. 会合の対象とした区域

阿東生雲地区

(田野上、田野中・下、矢柱、正地、中河内、姥金、古市、相上、本町、下新町、中村、寺田、本郷、天子上、天子中、天子下、開作、町、成谷、銅、須の原、白井谷、野地、大山、赤釜)

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年12月10日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

21 経営体数

法人	5 経営体
個人	16 経営体

農地の集積面積

150.51ha (区域内の農地面積 326.90ha、集積率 46.04%)

4. 今後の地域農業の在り方

中心経営体は、優良農地の作業受託や農地集積、飼料米や多収米の作付けによる生産コスト削減により経営安定を図る。また、高収益が見込まれる特産野菜の作付けを拡大することにより、農業経営体の競争力強化を図る。

新規就農者に対しては、生産技術や営農支援において、集落ぐるみでのフォローアップを行い、将来的には地域の後継者として育成する。

阿東地福地区において、人・農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年1月29日

山口市長 渡 辺 純 忠

記

1. 会合の対象とした区域

阿東地福地区

(井手口、中間丈・坂口、用路、赤根屋、店屋、的場、笠石、惣原、岡、市、追分、朴・清丸、若林・小山、八幡・鳶ノ子原、市井原、湯屋、馬場、藤ヶ森、曾根、名草、鷹ノ巣、下組・阿代河内、荒瀬、向原、上杉原、下杉原、田代)

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年12月13日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

14経営体数

法人	8経営体
個人	6経営体

農地の集積面積

160.59ha (区域内の農地面積330.30ha、集積率48.61%)

4. 今後の地域農業の在り方

中心経営体は、優良農地の作業受託や農地集積、酒米や多収米、飼料米の作付けを行うことで低コスト化により経営安定を図る。また、高収益が見込まれる特産野菜の作付けを拡大することにより、農業経営体の競争力強化を図る。

新規就農者に対しては、生産技術や営農支援において、集落ぐるみでのフォローアップを行い、将来的には地域の後継者として育成する。

阿東徳佐地区において、人・農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年1月29日

山口市長 渡辺純忠

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

阿東徳佐地区

(野坂、三原、大坪、新田亀山、下山畠田、上半久、下半久、領家、市場、御所河内、坂手、東畑、原山、上市東、駅通、栄町、上市西、中市、下市、小南、貞行、平丸、丸山、上宇津根、下宇津根、片山、水戸、台、西村、西目谷、開作、秋鹿、鍋倉、蔵田、坪の内、羽波、大久保、鍛冶ヶ原、神角)

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年12月13日

### 3. 当該区域における今後の地域の中心となる経営体（担い手）の状況

38経営体数

法人	15経営体
個人	23経営体

農地の集積面積

462.45ha（区域内の農地面積853.70ha、集積率54.17%）

### 4. 今後の地域農業の在り方

中心経営体は、優良農地の作業受託や農地集積、酒米、多収米や飼料米の作付け及びフレコン出荷による低コスト化により経営安定を図る。また、法人間連携による計画的な農地の集積や作付けを推進していく。

果樹の加工や販売による6次産業化や、高収益が見込まれる特産野菜の作付けを拡大することにより、農業経営体の競争力強化を図る。

新規就農者に対しては、生産技術や営農支援において、集落ぐるみでのフォローアップを行い、将来的には地域の後継者として育成する。

阿東嘉年地区において、人・農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年1月29日

山口市長 渡 辺 純 忠

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

阿東嘉年地区

(開籠、堂免、神田、土居、東居坂、西居坂、大迫、井戸、火打原、市場、吉部野上、吉部野下)

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成30年12月7日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

12経営体数

〔法人	2経営体〕
〔個人	10経営体〕

農地の集積面積

196.31ha (区域内の農地面積 299.90ha、集積率 65.46%)

### 4. 今後の地域農業の在り方

地区内の資源を活用した交流事業や加工等による6次産業化や生産物の高付加価値化(ブランド化、有機農業)を目指す。

新規就農者に対して、集落ぐるみでのフォローアップを行い、将来的には地域の後継者として育成する。

優良農地の作業受託や農地集積を行うことで低コスト化による経営安定を図る。

自然豊かな集落の景観維持を図りながら、人が集まる地域づくりを検討、実施する。